

健康に関するあらゆる悩みを 打ち明けられる場所—— 真の“かかりつけ医”がここに

近年、予防医療や早期治療を推進する観点からその存在が見直されている“かかりつけ医”。開業から約200年という長きにわたって鳥根県出雲市の地域医療を支えてきた「児玉医院」は、様々な相談に応じる“かかりつけ医”として地元住民に寄り添ってきた。本日は、俳優の石橋正次氏が児玉院長にインタビュー。

石橋 早速ですが、この「児玉医院」は何でも約200年もの歴史をお持ちだそうですね。これまで多くの医療施設を訪ねてきましたが、これほど歴史ある病院というのは初めてかもしれません。

児玉 江戸時代に現在の山陰自動車道の終点近くで診療所をスタートさせたのが、「児玉医院」の始まりです。山陰本線は以前は京都府の京都駅から鳥根県の出雲大社まででしたが、その後延伸開業され、それに伴ってインフラが整備されたため、当院は現在の場所へと移ってきたのです。私は「鳥取大学医学部附属病院」と県立病院に8年間勤務した後、「児玉医院」の娘である妻と結婚し、当家の婿養子となりました。当家は、5代目までは神職を兼務していたのですよ。

石橋 児玉家はまさに、出雲市の発展を見てこられた由緒ある家系。その6代目を務めることに大きなプレッシャーもあったのではありませんか。

児玉 というよりも、歴史を途絶えさせるわけにはいかないと強い信念を抱きましたね。そうして35歳で当院に入り、もう26年になります。

石橋 先代の時代と比べても、地域医療を取り巻く様相は変わったことでしょうか。

児玉 変わりましたね。でも、たとえ時代が移り変わろうとも、当院には変わらず大切にしていることがあります。それは、患者様に寄り添うこと。医学の進歩というのは目覚ましく、最先端の医療技術によって早期発見が随分と可能になったように、確かに検査は大切です。しかし私は、検査を行うだけでは不十分で、患者様自身を常日頃からきちんと診ることの方が大切だと思

うのですよ。いつもそばにいるからこそ些細な変化にも気づくことができるものです。患者様がどんな生活を送り、どんな習慣があつて、最近どんな出来事があつたのか——日々の中で人の身体は刻一刻と変化しており、その変化に敏感であることこそが、患者様の健康を支えることになるのですから。ある時、当院の患者様が大きな病院で血液・レントゲン検査を受けたところ、診察がなかったことに不安を覚えて検査結果を持って当院に来られたことがありました。身体の不調についてお医者様と話せないのは、不安ですよ。どんなに技術が進歩しようとも、フィルムやカルテだけでは患者様のお顔を見て、身体の具合についてじっくり話を聞く診察を大切にすべきだというのが私の考えです。

石橋 それが院長のおっしゃる「患者様に寄り添う」ということなのでしょう。

児玉 はい。中には別の病院で出された沢山の薬を私の前に広げ、「私は本当にこれだけの薬を飲む必要があるのですか？」と尋ねられる方も。どうして摂取しなければならぬのかきちんと説明を受けていないために不安なのでしょう。もちろん必要があつて出された薬ですが、患者様の中には特定の薬を飲むと体調が悪くなるため自身で調整されている方もいます。そうしたことも、患者様と日頃からコミュニケーションを取っていれば分かるのですが、そんな環境にない病院も残念ながらあるようですね。

石橋 では、相談できる医師がそばにいるというのは、患者様にとって本当に心強いでしょうね。皆様にとつてこちらは、駆け込み寺のような存在だ。

●どんな相談もできる安心感が、患者に親しまれる理由

ゲストインタビューー

石橋 正次
(俳優)



「医学博士でもある児玉院長は、漢方薬にも精通されています。薬が身体に合わないと相談に来られる方もいらっしゃるから、院長だからこそ提案できる医療サービスを提供していけることではないでしょうか。ぜひこれからも患者の皆さんを支えていってください」

▼心臓外科を専門とする外科医として8年間、大病院と県立病院に勤めた後、「児玉医院」の6代目院長に就任した児玉院長。第一線の外科医、そして地域医療を担う。かかりつけ医。として医療を取り巻く様相を見てきた院長は言う。「専門性にとらわれ、患者のすべてを診る医師が減った」と。当然、専門医の強みは特定の分野において類い希なる技術を身に付けていることにあり、その技術の進歩によって、治る病や救える命は増えた。しかし、どうだろうか。「どんな相談もできる」——そんな、かかりつけ医。がそばにいることが、いざという時にどれほど心強いかは、言うまでもない。「当院はどんな相談にも応じます。まず当院で診せてもらって、必要であれば大病院などを紹介します。安心してご相談ください」と院長。「児玉医院」を頼る患者が多い理由は、その親身の対応にあるのだ。

患者様の顔を見て身体具合についてじっくり伺う
診察を何より大切にしているのが私のやり方です



院長・医学博士 児玉 啓介

島根県出身。姉が幼少期より病に伏しており、また自身も病弱であったことから医学に関心を持ち、医師を志す。大学進学当時、島根県に医学部を持つ大学がなかったことから、隣県・「鳥取大学医学部」に進学。外科医を志して心臓外科を専攻した。卒業後は同大学病院と県立病院に8年ほど勤務し、結婚を経て、奥様の実家「児玉医院」へ。在宅医療を推進するなど、地域医療の充実に奔走する。

児玉 義父が診療に限らず患者様といろんな話をするのが好きな人で、私もそのスタイルを大切にしてきました。当院には、電車を乗り継いで1時間以上もかけて遠方から来られる方もいるのですよ。どこかで当院のことを聞いて来られるようで当院としては嬉しいのですが、その方のことを思えば、もっと住まいの近くにも何でも相談できる病院があればと願います。

石橋 いわゆる。かかりつけ医。ですか。昔はよく聞いた。かかりつけ医。の大切さが今、見直されていますよね。

児玉 はい。その観点からも私共では、独居老人や高齢者の二人住まいのお宅を対象に、在宅医療に力を入れていきたいと考えております。ここは農村部で高齢者だけのお宅が多いんです。老老介護は大きな負担となるので第三者の介入が必要ですが、福祉施設の数も限られており、また住み慣れた土地・自宅での療養を希望される方も多し。現在も、午前と午後の診察の間に、片

道20分ほどかけて往診に行っているお宅もあり、もっと往診できる医師がいれば、より多くの方のお力になれるのと思っています。6、7年前に在宅診療所が開設されていますが、一箇所だけではカバーしきれないのが現実ですので、当地の医療関係者が連携を図っていかねばなりませんね。

石橋 やはり医師が不足しているためでしょうか。

児玉 いえ。私がこの地に来てから診療所の数は3倍になり、また出雲市は大学病院や県立中央病院もあるなど、医療施設に恵まれているんです。今は医師不足と言われますが、この地域に関しては決して医師が不足しているわけではありません。上手く連携を取ることができれば、より地域医療が充実し、皆さんにとって住みよい場所となるでしょう。

石橋 児玉院長のそんな声を、患者様は心強く感じておられると思います。ぜひ、環境を整えていってください。



児玉医院

島根県出雲市西神西町515
TEL 0853-43-1365
FAX 0853-43-1920

